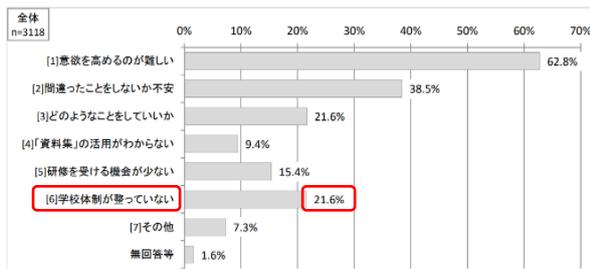


人権意識の高揚に向けて



京都府教育委員会発行の「人権教育を推進するために（令和6年度版）」には、教職員の人権意識の高揚に向け、今年度、「教職員間で指導内容の共通理解を図るとともに、指導方法の工夫改善を図り、実践力・指導力を向上させる。」(p.9)という内容が加わりました。まなび通信201号では、この内容が追加された背景や教職員の人権意識の高揚に向けて組織的に取り組まれている校内研修の事例等について紹介します。

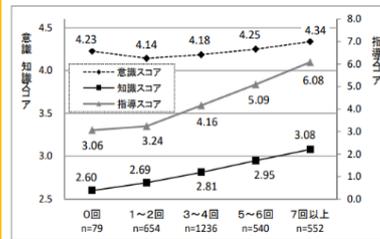
課題の共有



上は、「人権教育に関する教職員の意識調査結果報告書」(府教委 R2.4)の、問13「人権学習を進める際にあなたが困っていることはどのようなことですか」の回答の結果です。

これによると、「学校全体で取り組む体制が整っていない」という回答が、割合の高い順から3番目にあります。組織的な取組に不十分さを感じているという回答が特徴的で、クロス集計からは、40代以上の年齢において「整っていない」と感じる割合が高くなるという傾向が見られました。校内の組織的な取組について、常に点検をしようとする姿勢が求められます。

人権研修の工夫



左は、「人権教育に関する教職員の意識調査結果報告書」(府教委 R2.4)の、問11「人権問題に

ついての理解や考え方」と、「人権研修の参加経験」とのクロス集計の結果です。人権研修への参加の回数が多いほど、各スコアは高い傾向であることが分かります。また、同報告書の「第5章 考察」では次のように述べられています。

・・・研修会においては、各教職員が人権問題について調べたことを発表したり、校外研修会での内容を校内で発表したりする等の仕組みを作ることが効果的である。

これらの資料から、組織的でよりよい人権研修を目指すために、①「回数」と、②「アウトプット」の2点に注目します。

実践の紹介

8月、「回数」と「アウトプット」を手がかりにして、「ミニ人権研修」を実施されている学校にインタビューを行いました。

A 小学校での実践

—ミニ人権研修はどのようにして実施されていますか？

人権教育部発行の「人権だより」の記事をもとに研修を行っています。内容は職員が集まったときに紹介するようにしていますが、机上に配布する場合もあります。1学期は9号発行しました。

—どのようなテーマを扱われましたか？

できるだけ時事に関連するテーマを設定するようにしています。先日は、日本のジェンダーギャップ指数の特徴に注目できるように紹介しました。

—手応えはどうですか？

先生方が資料をもとに自然に話し合っていたり、直接、意見を交換できたりしたときに手応えを感じます。人の根底にある感覚を揺さぶることは簡単なことではないと思っていますが、そこに触れられるよう取組を続けたいです。

B 中学校での実践

—ミニ人権研修はどのようにして実施されていますか？

毎月の職員会議の際、人権教育部が主体となっており、5分間程度の短時間で実施しています。資料は電子データで配布しています。

—どのようなテーマを扱われましたか？

月ごとに中心テーマを決めて実施しています。1学期は、[4月] 就学援助制度、[5月] 人権学習の充実、[6月] 生徒指導の在り方、[7月] 希望進路の実現に向けて、[8月] 夏休み明けの生徒の変容に気付く、というテーマを設定しました。

—手応えはどうですか？

担当として、まずは自分自身の学びになっているところが大きいと感じています。周囲の先生方から感想をいただいたり、配布資料を活用いただいたりしていることも励みになります。

各校において人権研修が充実し、人権意識の高揚が一層図られますよう、今回のまなび通信をご参考ください。京都府教育委員会では、校内研修会等で活用できる動画リンク集を公開しています。視聴した動画について意見交換することも学び合いの貴重な機会になります。右の二次元コードからリンク集に入れますのでご活用ください。

